

第1章 基本編

1 大阪市の被害想定

(1) 地震

最後に東海地震が起きてからすでに150年以上が経過しています。そのために大地震は明日起きても不思議ではないと言われており、地震災害への備えが求められています。

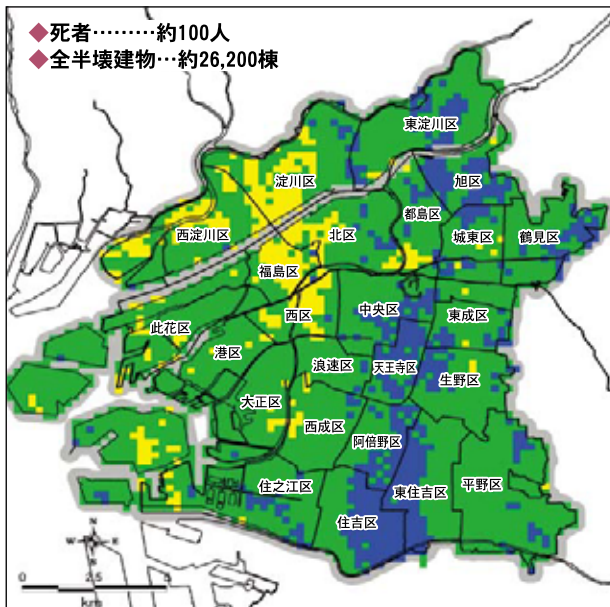
大阪市に想定される被害

※発生確率は今後30年以内に地震が起こる予測値
(平成26年1月1日時点)

震度
■ 震度7 ■ 震度6弱 ■ 震度5弱
■ 震度6強 ■ 震度5強 ■ 震度4以下

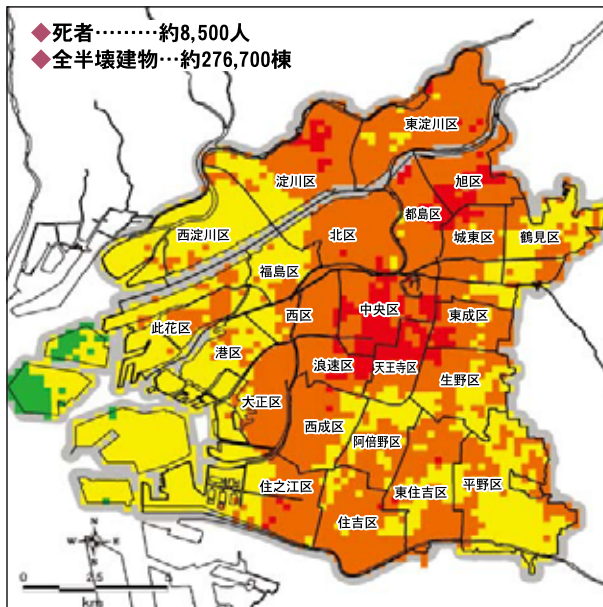
● 東南海・南海地震

マグニチュード/7.9~8.6 発生確率/70%程度



● 上町断層帯地震

マグニチュード/7.5~7.8 発生確率/2~3%(活断層の中では発生確率の高いグループ)



コラム

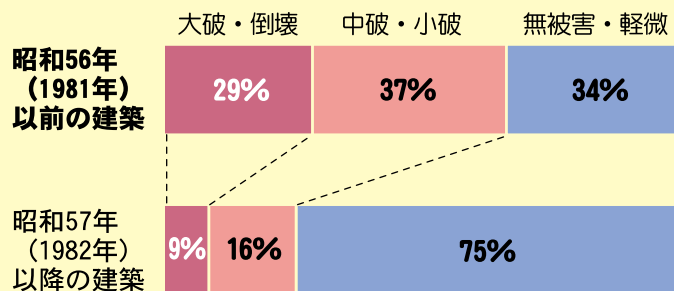
マンションの耐震対策は大丈夫ですか？

○あなたのマンションが昭和56(1981)年5月31日以前の建物の場合には、地震の被害が大きくなることが予想されます。

○地震に対して強度がどの程度か、専門家に診断を依頼し、強度が不足していれば耐震改修を行う必要があります。

阪神淡路大震災において、昭和56(1981)年5月31日以前の建物は、被害が大きくなっています。

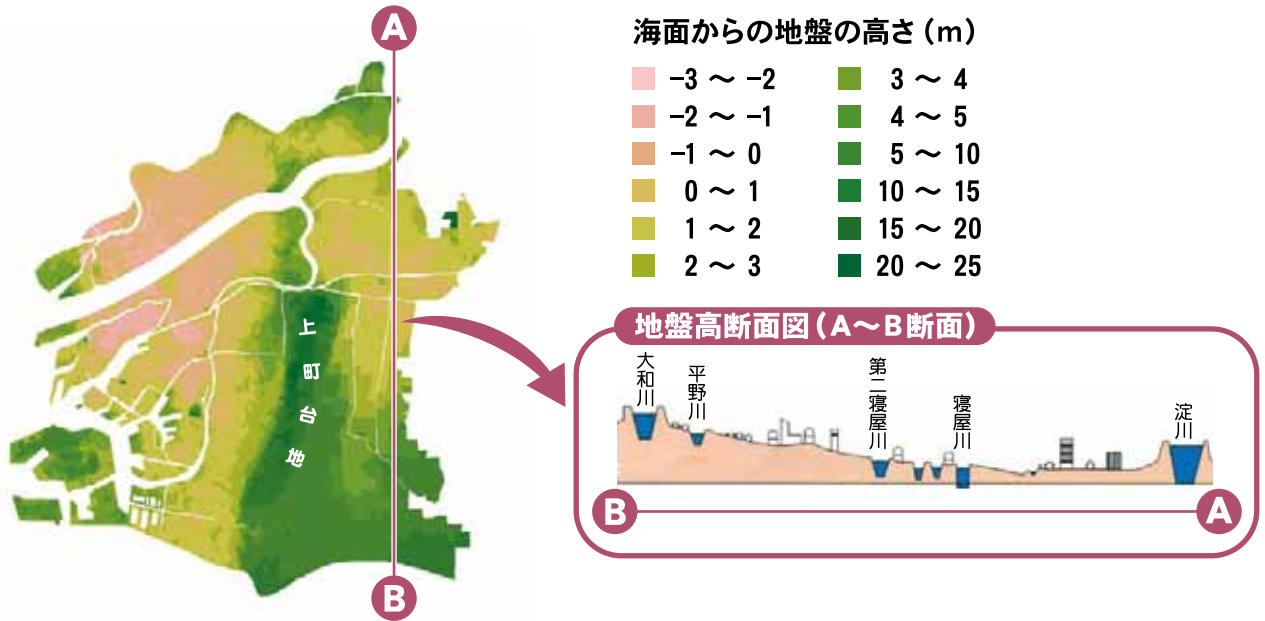
■建設時期と地震被害状況(JR三ノ宮駅近辺における全数調査)



(「市民防災マニュアル」平成27年8月、大阪市)

(2) 風水害・津波

大阪市は、淀川、神崎川、大和川、寝屋川といった大きな河川と海に囲まれています。市街地の9割までが平坦な低地で自然排水が困難なため、大雨、津波による水害に対して非常に弱い地形となっています。



風水害・津波については、台風や集中豪雨によって河川水位が堤防より高くなる河川氾濫、市街地に降った雨が下水道などから排水することができずに発生する内水氾濫、地震により津波が発生した場合の津波氾濫が想定されています。

(3) 防災マップ

「マップナビおおさか^{*}」はインターネットを通じて大阪市の施設情報、まちづくり情報などを発信するサービスです。防災情報マップとして、以下の防災マップが掲載されています。

①防災関連施設、②震度分布予測図、③浸水想定区域図

また、「防災マップ」は、大阪市危機管理室（市役所5階）や区役所でも配布しています。

※



(<http://www.mapnavi.city.osaka.lg.jp/webgis/index.html>)